

# 北社会ニュース ㊦56号

2009年7月22日

発行者：鈴木壮夫

杜の都はもっと清々しい都市だったよなあ～！

久しぶりにお会いした一高・高4回生Kさんの嘆きの言葉です。市長がタクシー券を不正使用して、丸刈りになって、報道陣の前に姿をあらわすなんざ、仙台ではあってはならないことだと怒っておりました。50数年前の市長選挙、革新の島野さんが初当選した当時の思い出話になり、私もいくつかの記憶が蘇ってきました。父は社会党支持者で、島野さんとは友人関係で、北一番町にあった我が家に寄っていただいたこともありました。

開票当日、開票速報は東二番町の河北新報の特設会場で、各所から報告が入るたびに係員が大きな筆で大きな白紙に数字を書き込んでおりました。その都度、両陣営からのどよめき、口惜しいのだろう“間違っているんじゃないか”というヤジ。そして、島野さんの当選が決まり、父にその喜びを一刻も早く知らせたくて、思いっきり自転車を漕いだこと—多分、二高在学時代？—、家に着いて、ぜーぜーしながら“当選したよ”と言った。

それから数日後、仙台在住の同期生から高11回・ピンピン会の事務連絡の手紙が届き、末尾の追伸を見てビックリしました。先月、届いた同窓会報（平成21年度春季号）の8頁に年会費の納入率向上をお願いしますという理事会の記事があり、その中に納入率・納入額の「回期」別順位表が初めて掲載されておりました。2月16日の北社会にて、当日の講師山下副会長様より、順位表を検討しているとお話しもありましたし、これも納入率向上の一方法と納得しました。納入率の第一位は高8回の49.5%でした。

224人中111人が年会費を納入したのです。素晴らしいことです。而も昨年11月以降33人がピタシ10万円を納入しているのです。どのようなやり方でこの素晴らしい成果をあげることができたのか、同窓会報にて紹介して他の回期を刺激して年会費の納入者を増加させましょうと同窓会事務局にエールを送りました。（6月23日付け）同期生の手紙を見てビックリしたのはこの10万円は亡くなった高8回生のご遺族から同窓会にご送金いただいたものだという事実でした。12月9日にご送金いただき、12月12日に事務処理されているそうです。1人を33人と捏造して納入者を111人として公表することは、ご遺族のお気持ちにどう説明されるのだろうか。こんな単純なミスが何故見過ごされてしまったのか、而も高8回は山下副会長様の回期ですから、私は信じられないと先週、お便りを送りました。

来年は母校創立110周年にあたり、記念事業も検討されているようです。当然のことですが財源的な裏付けは絶対欠かせません。年会費の納入は同窓生の義務です。昨年度の納入率は14.199人に対し2,864人の20%です。5人に1人しか払っていないのです。私達の高11回期は数年前より機会ある毎に年会費納入を呼び掛けました。

「年会費納入は文武一道をも支える」というフレーズで、100人・300,000円を目標としました。2年前より、目標を達成昨年度は111人・333,000円でした。各回期の名簿の整理を含め、同窓会事務局を守り立てて下さるようお願い致します。

(2) 本日、第274回 北社会

講師：日野三十四氏（高15回）モノづくり経営研究所イマジン所長  
日本アイ・ピー・エム（株）顧問

テーマ：「一介のサラリーマンが55歳で独立して米国・Shingo Prize  
を受賞するまで」

『ウィキペディア (Wikipedia)』を参照すると、Shingo Prize  
とは、戦後にトヨタ自動車を初め日米の製造業の生産革新に貢献した故新郷重雄氏を記念  
して、1988年にユタ州立ビジネススクールに設立した組織で、年に一回の世界会議と  
優秀な製造業や研究所の表彰などを行なっています。

Shingo Awardsを受賞する日本企業や日本人は少ないので日本ではあまり知ら  
れていませんが、米国では“製造業のノーベル賞”とも称され (Business  
Week magazine、May 15、2000)、米国マルコム・ボルドリッジ  
国家品質賞に並び称される権威ある賞です。と紹介されている。

日野三十四氏は2007年に受賞されております。著書は“Inside the  
Mind of Toyota: Management Principles for  
Enduring Growth”です。

この著書のベースとなった「トヨタ経営システムの研究」—永続的成長の原理—  
ダイヤモンド社刊、2002年発行を講読中です。私も大学卒業後三年半という短期間  
でしたが小さな自動車部品メーカーに勤務しておりました。米国のビッグ3が日本に本格的  
に上陸してきたら日本のメーカーはひとたまりもなく敗れてしまうとか、ホンダは二輪車  
だけで四輪の自動車は生産してない時代でした。そんなこともあって興味深く拝読中  
です。そして、私も日野氏と同じ55歳にて商社を退社し、日野氏のような学術的分野  
ではなく手打そば屋の道に入りました。お陰様にて12年目に入りました。お客様に感謝  
の気持ち一杯です。日野氏も著作の“あとがき”に次のように書かれております。「最後  
になりますが、著作歴もなく、知名度もない私に執筆のチャンスを与えてくださった  
ダイヤモンド社編集長の度量に感謝します。～中略～終わりに、私が執筆活動に集中  
できるよういろいろと配慮してくれた妻にも心から感謝しています。」—2002年 初夏—  
339頁の大部の著作を最近持ち歩き、よく書き上げたなあ～と暑さに負けそうになる  
自分を叱咤激励させていただいております。

(3) 来月の北社会 開催日：8月18日（火）

講師：木村義満氏（高14回）

“サクスが歌うバッハ無伴奏チェロ組曲”～ミニコンサート～

昨秋、ホテルオークラでの東京同窓会で初めて演奏をお聞きしました。東京芸大—  
ボルドー音楽院のご出身。夏の一夜、サクスの音色に耳をかたむけましょう。

(4) 9月の北社会 開催日は未定です。

講師：日下豊顯氏（高9回）(株)メックモールド代表取締役会長

中国～ベトナム、アジア進出の海外戦略と展開をテーマにお願いしました。